

# 標準開示フォーマット（特定非営利活動法人用）

報告年月日

報告者氏名

当該法人における役職

## 1. 組織情報

- 法人名称
- 所轄庁
- 主たる事務所の所在地
- 従たる事務所の所在地
- 代表者氏名
- 法人設立登記年月日
- 定款に記載された目的

- 活動分野
 

<input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉	<input type="checkbox"/> 社会教育	<input type="checkbox"/> まちづくり
<input type="checkbox"/> 学術・文化・芸術・スポーツ	<input type="checkbox"/> 環境の保全	<input type="checkbox"/> 災害救援
<input type="checkbox"/> 地域安全	<input type="checkbox"/> 人権・平和	<input type="checkbox"/> 国際協力
<input type="checkbox"/> 男女共同参画社会	<input type="checkbox"/> 子どもの健全育成	<input type="checkbox"/> 情報化社会
<input type="checkbox"/> 科学技術の振興	<input type="checkbox"/> 経済活動の活性化	<input type="checkbox"/> 職業能力・雇用機会
<input type="checkbox"/> 消費者の保護	<input type="checkbox"/> 連絡・助言・援助	

- 事業活動の概要 (400字以内)

公開用電話番号

■ ファクス

■ ホームページ

■ メールアドレス

■ 常勤職員数

■ 認定  (認定NPO法人の場合は、チェックを入れ、以下の項目も入力)

認定年月日

認定満了日

相対値基準  絶対値基準  条例指定  仮認定

■ 閲覧書類の添付  定款

	事業報告書	財産目録	貸借対照表	活動計算書/ 収支計算書
平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

※閲覧書類がインターネットで公開されている団体につきましては、当該ウェブページのURLを御記入ください。

## 2. 財務情報

■ 事業年度（直近の決算）

■ 活動計算書／収支計算書

科目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
I 経常収益計			
1. 受取会費			
2. 受取寄附金			
3. 受取民間助成金			
4. 受取公的補助金			
5. 自主事業収益 (うち介護事業収益)			
6. 受託事業収益 (うち公益受託収益)			
7. その他収益			
II 経常費用計			
1. 事業費 (うち人件費)			
2. 管理費 (うち人件費)			
III 当期経常増減額			
IV 経常外収益計			
V 経常外費用計			
VI 経理区分振替額			
VII 当期正味財産増減額			
VIII 前期繰越正味財産額			
IX 次期繰越正味財産額			

■ 貸借対照表

平成 年 月 日現在

I 資産の部	
1. 流動資産	
2. 固定資産	
資産合計	

II 負債の部	
1. 流動負債	
2. 固定負債	
負債合計	
III 正味財産の部	
正味財産合計	
負債及び正味財産合計	

■ 準拠している会計基準  NPO法人会計基準

その他（その会計基準名）……………

■ 監査の実施  監事監査

# NPO法人 福祉作業所・ひなたぼっこ 定款

## 第1章 総則

### (名称)

第1条 この法人は、NPO法人 福祉作業所・ひなたぼっこ という。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を日南市南郷町潟上65番地10に置く。

### (目的)

第3条 この法人は、障害者や高齢者が生き甲斐を持ち、且つ安心して過ごせる地域社会を実現するために、利用する側の視点に立ったグループホームなどの在宅介護事業等による地域福祉サービス活動を行い、もって宮崎県内の福祉及び保健の増進に寄与することを目的とする。

### (特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 環境の保全を図る活動
- (4) 地域安全活動
- (5) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (6) 子どもの健全育成を図る活動
- (7) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動

### (特定非営利活動に係る事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 障害者自立支援法の市町村地域生活支援事業
- (2) その他目的を達成するために必要な事業

## 第2章 会員

### (種別)

第6条 この法人の会員は、次の3種とし正会員をもって特定非営利活動促進法（平成10年法律第7号。以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体。
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人又は団体。
- (3) 名誉会員 この法人に功労があった者又は、学識経験者で総会において推薦されたものを置くことができる。

### (入会)

第7条 正会員になろうとするものは、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。

- 2 理事会は、正当な理由がない限り、そのものの入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、第1項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 正会員が次の各号のいずれかに該当するときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届を提出したとき。
- (2) 本人が死亡、又は正会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を納入しないとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、退会しようとするときは、退会届を理事長に提出して、任意に退会できる。

(除名)

第11条 会員が、次の各号のいずれかに該当するときは、理事会において理事総数の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。

- (1) この法人の定款等に違反したとき。
  - (2) この法人の名誉を毀損し、又はこの法人の目的に反する行為をしたとき。
- 2 前項の規定により会員を除名しようとするときは、その会員にその旨をあらかじめ通知するとともに、除名の議決を行う理事会において、その会員に弁明の機会を与えなければならない。

(抛出金品の不返還)

第12条 退会し、又は除名された会員が既に納入した入会金、会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

### 第3章 役員及び顧問

(種類及び定数)

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上10人以内
  - (2) 監事 1人以上3人以内
- 2 理事のうち、1人を理事長、1人ないし2人を副理事長とする。

(選任)

第14条 理事及び監事は、総会において正会員（団体にあつてはその代表者）のうちから選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事会において、理事の互選により定める。
- 3 総会が招集されるまでの間において、補欠または増員のため理事または監事を緊急に選任す

る必要がある時は、第1項の規定にかかわらず、理事会の議決により、これを選任することができる。この場合においては、当該理事会開催後最初に開催する総会において承認を受けなければならない。

- 4 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることはできない。

#### (職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を統括する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、業務を処理するとともに、理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、理事長が理事会の議決を経て定めた順序により、その職務を代行する。
- 3 理事は、理事会を構成し、定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
  - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
  - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
  - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合は、これを総会または所轄庁に報告すること。
  - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
  - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

#### (任期)

第16条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の規定に関わらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後、最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。
- 3 補欠として選任された役員の任期は、前任者の残任期間とし、増員により選任された役員の任期は現任者の残任期間とする。
- 4 役員は、辞任し、又は任期が満了した場合においても、任期満了後最初に開かれる通常総会で後任者が承認され就任するまでは、その職務を行わなければならない。

#### (欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

#### (解任)

第18条 役員が次の各号のいずれかに該当するときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のために職務の執行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があると認められるとき。

2 前項の規定により解任しようとするときは、その役員にその旨をあらかじめ通知するとともに、解任の議決を行う総会において、その役員に弁明の機会を与えなければならない。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し、必要な事項は、理事長が総会の議決を経て別に定める。

(顧問)

第20条 この法人に顧問若干名を置くことができる。

2 顧問は、学識経験者又は本会に功労のあった者のうちから、理事会の議決を経て、理事長が委嘱する。

3 顧問は理事長の諮問に応じ、理事会に助言を与えることができる。

4 前2項に定めるもののほか、顧問に関し必要な事項は、理事長が理事会の議決を経て別に定める。

5 第18条第1項の規定は、顧問について準用する。

## 第4章 総会

(種別及び構成)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会とする。

2 総会は正会員をもって構成する。

(権能)

第22条 総会は、この定款に別に定めるもののほか、この法人の運営に関する重要な事項を議決する。

(開催)

第23条 通常総会は、年に2回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

(1) 理事会が必要と認めたとき。

(2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的たる事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(3) 第15条第4項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第24条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から起算して30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するには、正会員に対し、総会の目的たる事項及びその内容並びに日時及び場所を示した書面をもって、開会の日の7日前までに通知しなければならない。

(議長)

第25条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第26条 総会は、正会員総数の過半数以上の出席がなければ開会することはできない。

(議決)

第27条 総会の議事は、この定款に定めるもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。この場合において、議長は、会員として議決に加わる権利を有しない。

- 2 総会における議決事項は、第24条第3項の規定によりあらかじめ通知された事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した正会員の3分の2以上の同意があった場合は、この限りではない。
- 3 議決すべき事項につき特別な利害関係を有する正会員は、当該事項の議決に加わることができない。

(書面表決等)

第28条 やむを得ない理由のために総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知した事項について、書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

- 2 前項の代理人は、表決しようとするときは、あらかじめ代理権を証する書面を総会ごとに議長に提出しなければならない。
- 3 第1項の規定により表決権を行使した正会員は、第26条及び前条第1項の規定の適用については出席したものとみなす。

(議事録)

第29条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
  - (2) 正会員の現在数
  - (3) 総会に出席した正会員の数（書面表決者又は表決委任者がある場合には、その数を付記すること。）
  - (4) 審議事項
  - (5) 議事の経過の概要及び議決の結果
  - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録については、議長のほか出席した正会員のうちからその総会において選任された2名以上の議事録署名人が署名押印しなければならない。

## 第5章 理事会

(構成)

第30条 理事会は、理事をもって構成する。

- 2 監事は理事会に出席し意見を述べることができる。

(権能)

第31条 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。

- (1) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (2) 総会に付議すべき事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(開催)

第32条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第4項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第33条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は前条第2号又は第3号の規定による請求があったときは、その日から起算して14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するには、理事に対し、理事会の目的たる事項及びその内容並びに日時及び場所を示した書面をもって、開催の日の5日前までに通知しなければならない。ただし、緊急に招集の必要がある時は、理事の過半数の同意を得て、この期間を短縮することができる。

(議長)

第34条 理事会の議長は、原則として理事長があたる。但し、理事長が指名した場合は、その者があたる。

(定足数)

第35条 理事会は、理事総数の過半数以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

- 第36条 理事会の議事は、この定款に定めるもののほか、出席した理事の過半数をもって可決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 2 理事会における議決事項は、第33条第3項の規定によりあらかじめ通知された事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席理事の2分の1以上の同意があった場合は、この限りではない。
  - 3 議決すべき事項につき特別な利害関係を有する理事は、当該事項の議決に加わることができない。

(書面表決等)

- 第37条 やむを得ない理由のために理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知した事項について、書面をもって表決することができる。
- 2 前項の規定により表決権を行使した理事は、第35条及び前条第1項の規定の適用については出席したものとみなす。

(議事録)



第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事の現在数
- (3) 理事会に出席した理事の数（書面表決者がある場合には、その数を付記すること。）
- (4) 審議事項
- (5) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録については、議長のほか出席した理事のうちからその理事会において選任された2名以上の議事録署名人が署名押印しなければならない。

## 第6章 資産及び会計

### （資産の構成）

第39条 この法人の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された財産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 事業に伴う収入
- (5) 資産から生じる収入
- (6) その他の収入

### （資産の管理）

第40条 この法人の資産は、理事長が管理し、その管理方法は、理事長が理事会の議決を経て別に定める。

### （会計の原則）

第41条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

### （事業計画及び予算）

第42条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、理事長が作成し、その事業年度開始前に総会の議決を得なければならない。

2 事業計画及び予算の軽微な変更は、理事会の議決を経て行うことができる。この場合において理事長は、変更した内容について、当該事業年度内に開催される総会に報告しなければならない。

### （暫定予算）

第43条 前条の第1項規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、新たな予算が成立する日まで事業年度の予算に準じ収入し、又は支出することができる。

2 前項の規定による収入又は支出は、新たに成立した予算の収入又は支出とみなす。

### （事業報告及び決算など）

第44条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を経て、総会の議決を得

なければならない。

- 2 前項の議決を経た事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、事業年度の役員の名簿、役員のうち前年に報酬を受けたものの名簿、社員のうち10名以上の名簿を添えて、当該事業年度終了後3ヶ月以内に本会の所轄庁に提出しなければならない。

(剰余金の処分)

- 第45条 この法人の決算において、剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

- 第46条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

- 第47条 この定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の3分の2以上の多数による議決を経、かつ所轄庁の認証を得なければならない。
- 2 前項の規定に関わらず、法第25条第3項に規定する軽微な事項に係る定款の変更を行った場合には、遅滞なくその旨を所轄庁に届け出なければならない。

(解散)

- 第48条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。
  - (1) 総会の決議
  - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
  - (3) 正会員の欠亡
  - (4) 合併
  - (5) 破産
  - (6) 所轄庁による設立認証の取消し
- 2 前項第1号の事由により解散するときは、正会員総数の3分の2以上の議決を得なければならない。
- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(清算人の選任)

- 第49条 この法人が解散したとき(合併又は破産による解散を除く。)は、理事が清算人となる。

(残余財産の帰属)

- 第50条 この法人が解散したとき(合併又は破産による解散を除く。)に存する残余財産は、総会において正会員総数の過半数の議決を経て、特定非営利活動法人、社会福祉法人または地方公共団体に譲渡するものとする。

(合併)

- 第51条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の3分の2以上の議決

を経、かつ所轄庁の認証を得なければならない。

(公告の方法)

第52条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

## 第8章 事務局

(事務局)

第53条 この法人の事務を処理するため、この法人に事務局を置く。

- 2 事務局には、事務局長その他の職員を置く。
- 3 事務局長その他の職員は、理事長が任免する。
- 4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項については、理事長が理事会の議決を経て別に定める。

## 第9章 雑則

第54条 この定款の施行についての必要な事項は、理事長が理事会の議決を経て別に定める。

## 附則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、第14条第1項の規定にかかわらず、次に掲げるものとする。

理事長	野川喜美子
副理事長	濱砂嘉幸
理事	高山スエ子
理事	野川譲治
監事	坂田武人
監事	阪元清幸
- 3 この法人の設立当初の役員は、その任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成19年度の最初の通常総会終了の日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業年度の事業計画及び予算は、第42条第1項にかかわらず、設立総会の定めるところによる。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第46条の規定にかかわらず、成立の日から平成20年3月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の正会員の入会金及び会費は、第8条の規定に関わらず、次に掲げる額とする。
  - (1) 入会金 2,000 円
  - (2) 年会費 2,000 円

日南市地域活動支援センター 型事業実績報告書

1 事業所の概要

事業所の名称		NPO法人 福祉作業所・ひなたぼっこ			
所在地		〒889-3213 日南市南郷町潟上65番地10			
連絡先		電話 64-2235 FAX 64-2131 メールアドレス bokko@smile.ocn.ne.jp			
設置者	氏名または団体の名称	(代表者氏名 野川喜美子)			
	住所(所在地)及び電話番号	〒889-3213 日南市南郷町潟上125番地10 電話 64-3015			
事業の開始年月日		平成 9年 5月 1日			
実施責任者		野川喜美子			
障害種別		身体障害者 ・ 知的障害者 ・ 精神障害者			
職員の構成 (施設長・指導員の配置) ※行が足りない場合は、別紙でも可		氏名	職種	常勤・非常勤の別	勤務日数
		酒井浩枝	指導員	常 勤	週 5 日
		野川喜美子	指導員	非常勤	週 5 日
		元木光子	補助	非常勤	変則
		吉川弘子	補助	非常勤	変則
		※他ボランティア数名			
1週間の開所日数		5日	開所時間	9:00~16:00	
実利用人数		別紙のとおり	3月31日現在の在籍者数	12人	
活動・指導の内容 プログラム 年間計画等		(1)創作的活動の内容 さをり織り アクリルタワシ 一閑張り 小物等製作 (2)生産活動の内容 さをり織り アクリルタワシ 一閑散張り 靴下の糸切り及び袋詰め お菓子作り			

		<p>(3) 社会交流促進の内容</p> <p>神社境内の清掃</p> <p>日の出市出展</p> <p>南郷中学校生との福祉交流</p> <p>支援学校生との交流</p> <p>都城市内の福祉団体との共同事業開催 (きずな♡ 事業)</p> <p>民生委員・中学生等との餅つき大会</p> <p>UMKスタジオでの24時間愛は地球を救う参加</p> <p>宮崎刑務所矯正展参加</p> <p>南郷文化産業福祉祭り参加</p> <p>北郷産業祭り参加</p> <p>近隣農家の手伝い</p> <p>花の植栽・除草</p> <p>(3)社会交流促進の内容</p> <p>神社境内の清掃</p> <p>日の出市出展</p> <p>南郷中学校生との福祉交流</p> <p>支援学校生との交流</p> <p>都城市内の福祉団体との共同事業開催 (きずな♡ 事業)</p> <p>民生委員・中学生等との餅つき大会</p> <p>UMKスタジオでの24時間愛は地球を救う参加</p> <p>宮崎刑務所矯正展参加</p> <p>南郷文化産業福祉祭り参加</p> <p>北郷産業祭り参加</p> <p>近隣農家の手伝い</p> <p>花の植栽・除草</p>
送迎サービス実施の有無		有 (以下の車両欄も記入してください)
車 両	所有者	NPO法人 福祉作業所・ひなたぼっこ
	登録番号	宮崎800さ2158

収 支 精 算 書  
(平成22年度地域活動支援センターⅢ型事業)

1 収入

科 目	予算額	決算額	増減	積 算 基 礎
補助金	3,000,000	3,000,000	0	市
会費	44,000	44,000	0	正会員(2000×11)賛助会員(1000×22)
寄付金	10,000	548,349	538,349	
事業収入	1,600,000	861,975	△ 738,025	さをり製品等売上
利用料	0	144,000	144,000	12名×1,000×12ヶ月
雑収入	10,449	64,886	54,437	J A 出資配当等
繰越金	265,551	265,551	0	
計	4,930,000	4,928,761	△ 1,239	

2 支出

科 目	予算額	決算額	増減	積 算 基 礎
給料	1,500,000	1,748,000	248,000	指導員98,000円×11ヶ月=1,078,000円 88,000円×1ヶ月=88,000円 指導員98,000円×4ヶ月=392,000円 非常勤10,000円×10ヶ月=100,000円 非常勤2,500円×36枚=90,000円
賃金	700,000	594,685	△ 105,315	利用者賃金
旅費	50,000	25,400	△ 24,600	研修・会議出席時
需用費	700,000	681,522	△ 18,478	消耗品、印刷製本費、光熱水費、燃料等
役務費	600,000	509,701	△ 90,299	通信費、火災保険、任意保険
賃借料	360,000	360,000	0	家賃
原材料費	500,000	442,633	△ 57,367	さをり糸、染料等
公課費	50,000	103,390	53,390	印紙税、固定資産税、重量税
法定福利費	150,000	230,134	80,134	社会保険料、労働保険
福利厚生費	300,000	222,043	△ 77,957	小旅行、誕生会等の費用、チケット他
研修費	20,000	9,200	△ 10,800	テキスト代
雑費	0	2,053	2,053	
予備費	0	0	0	
次期繰越費	0	0	0	
計	4,930,000	4,928,761	△ 1,239	